

出雲湖陵道路 発掘調査通信 第2号

中上II遺跡の発掘調査が終了しました！

昨年の夏から始めた中上II遺跡の発掘調査が、地元のみならず関係機関のご理解ご協力により、1月をもって無事に終了することができました。

現在は埋蔵文化財調査センターにて、今回の調査で出土した土器の接合や土器の実測など報告書の作成に向けて作業を行っており、調査中にはわからなかった事など新たな発見に期待を寄せています。

みなさま、1年間ありがとうございました！



中上II遺跡遠景（西から）



【今回の調査でわかったこと】

- ・中上II遺跡では、弥生時代後期（約1800年前）に人の営みが始まった（加工段5）。
- ・川岸の土器集中地点の発見から、古墳時代前期（約1700年前）に水辺の祭祀が行われていた可能性がある。
- ・川跡北側の盛土層は中世（13～14世紀頃）の造成跡と考えられ、遺跡の西方に立地する中世城郭神西城跡との関連が興味深い。
- ・谷間の東西に流れていた川跡や水路跡は、近代（明治時代）以降に埋め立てられたと考えられる。
- ・以上のように、今回の発見は遺構の時期や性格がバラエティに富んでおり、九景川下流域の地域史を検討する上で貴重な成果といえる。



○加工段5の遺物出土状況
 床面から赤色の土器や石器がまとめて出土しました。

発見その① 弥生時代～古墳時代の加工段
 川跡の北側で、斜面を平らに加工した場所を5箇所で見つけました。柱の跡が残っているものは建物があったと想定されます。



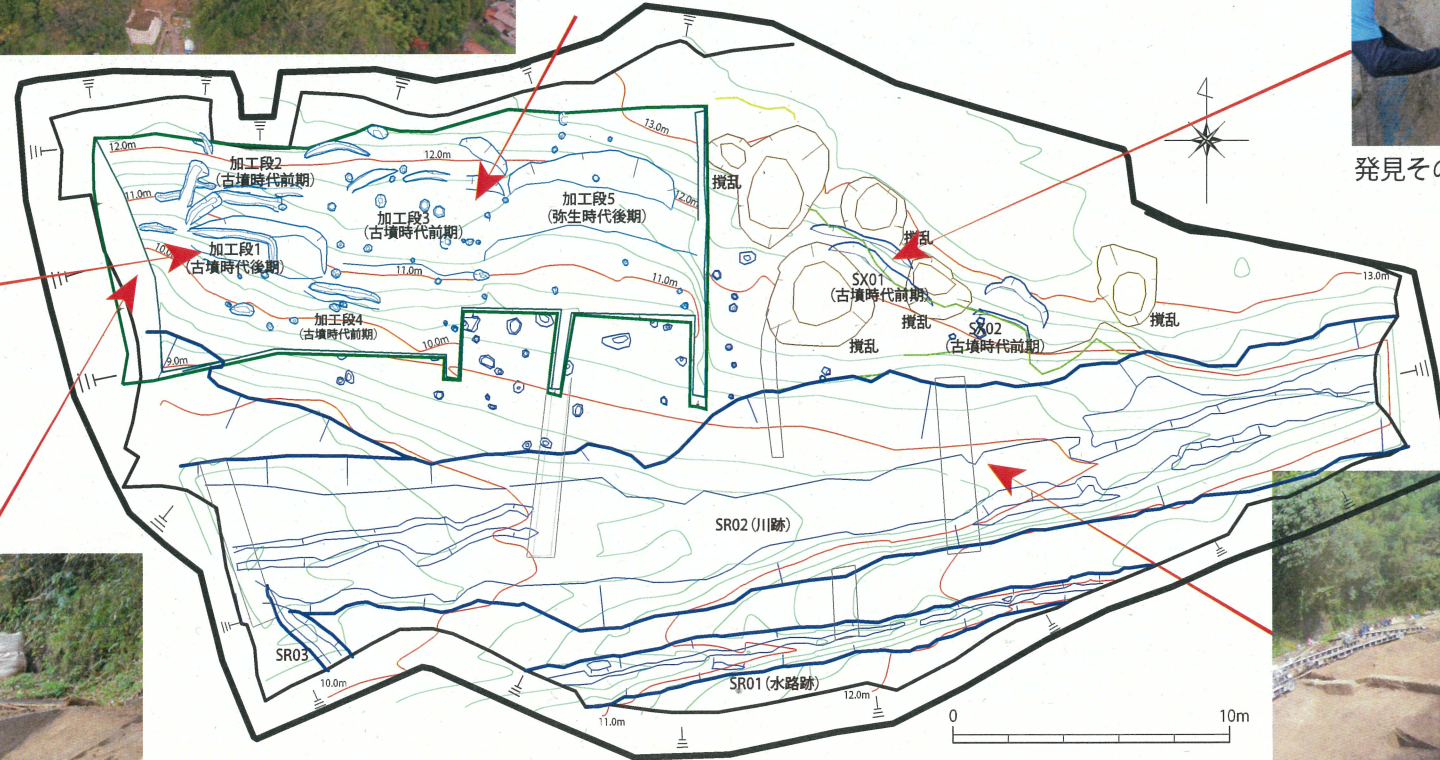
発見その② 古墳時代の遺物集中地点
 川跡の川岸で、古墳時代前期の土器が集中して出土する地点を2箇所で見つけました。建物があった痕跡はないので、水辺で何らかの祭祀が行われていた可能性があります。

【中上II（なかがみに）遺跡の発掘調査】

- 所在地：出雲市東神西町
- 調査面積：約1,900㎡
- 調査期間：7月下旬～1月末
- 発見した主な遺構
 - ・川跡・水路跡（～近代）
 - ・盛土造成跡（中世）
 - ・土器集中地点2（古墳時代前期）
 - ・加工段状遺構5（弥生時代後期、古墳時代前期～後期）



○加工段1の遺物出土状況
 崩れないように慎重に作業しています



発見その③ 厚さ1.5mの盛土層
 川跡の北側斜面で中世期に造成されたとみられる盛土層を発見



発見その④ 川跡や水路跡
 かつて谷間を流れていた川跡や水路跡を発見



はくつくん
 ご協力ありがとうございました！